

大阪・広島にセンター

年明け開設 外食むけ共配増強



来年度中にも、福岡県に自前のセンターを構える計画

3温度帯をカバー

【広島】中国陸運(西尾義輝社長、広島県廿日市市)は2021年1月、大阪営業所摂津第2センター(大阪府摂津市)と西風新都XD(クロスドック)センター(広島市安佐南区)を開設する。外食向けなど共同配送の体制を強化し、業容拡大を図る。(矢野孝明)

摂津第2センターは、摂津第1センターの目の前にある倉庫物件を居抜きで賃借。1320平方メートルの冷蔵倉庫と330平方メートルの冷凍倉庫を備え、第1センター

にある660平方メートルのチルド倉庫と合わせ、3温度帯をカバーする外食共配の物流拠点となる。配送エリアは関西全域で、日々16台前後のトラックが稼働する。

中国陸運

西風新都XDセンターは、大手食品卸の物流センターの一角を間借りし、260平方メートルの冷蔵倉庫を設置。食品を積み換えるための、小型の物流拠点として機能する。既存の深川営業所センター(安佐北区)が収容能力を超えたため、新規案件の取り込みを含め拠点を増強した。

西尾社長は「物流の多品少量化が進んだ上に、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で荷物が減り、従来の共配が成り立たないケースが出ている」と指摘。更に、「当社が構築している共配網と自社による幹線輸送を組み合わせた物流システムは、採算が取れなくなった荷物の受け皿になる。労務管理のためにも有効で、新センターは開設前から引き合いを受けている」と説明。21年度中にも、福岡県に自前のセンターを構える計画だ。